

中国大陸から見た総統選・立法委員選挙

宇都宮 溪*

(国立台湾大学政治学研究所博士課程・在中国日本大使館専門調査員)

【要約】

2016年に行われた総統・立法委員ダブル選挙において、民進党の完全勝利と国民党の大敗により、中国大陸側は今後、長期にわたって民進党政権下の台湾と向き合う必要が生じている。大陸側は、台湾の選挙結果如何で自身の対台湾政策が揺らぐことはないことを強調する一方で、その対台湾政策の調整を迫られている。「一つの中国」原則を核心とする「92年コンセンサス」をめぐる、大陸側と台湾側では既に駆け引きが起こっており、双方がいかんにして妥協点を見つけることが出来るかが、今後の兩岸関係を占う上での鍵となる。

キーワード：中国大陸の対台湾政策、2016年台湾総統・立法委員選挙、92年コンセンサス

* 本論文の内容は全て筆者自身の観点に基づくものであり、何ら所属機関の意見を代表するものではない。

一 はじめに

2016年1月16日、台湾で総統・立法委員ダブル選挙が行われた。結果は民進党の完全勝利に終わり、台湾は3度目の政権交代が確実となった。2014年に行われた統一地方選挙以降、民進党の優勢は既に確実なものとなっており、今回の選挙に対する大陸側の関心は過去に比べて低かったものの、今回の選挙結果は大陸側に少なからぬ衝撃をもたらすものであったと考えられる¹。

その理由として、第1に、民進党による初の完全な政権が確立した点が挙げられる。2000年～2008年の陳水扁政権においては、総統は民進党籍であったものの、立法院は国民党が優位を占めていたため、党綱で「台湾独立」を掲げる民進党の独立路線へのブレーキ役を担うことを期待できた。しかし今回は、総統選挙で民進党候補が勝利したのに加え、立法委員選挙でも民進党が躍進したほか、先だって行われた2014年の地方選挙の結果により、地方においても民進党が多数議席を占めていることから、行政・立法及び地方のいずれにおいても民進党が実権を握ったこととなる。第2に、国民党の大敗により、民進党政権が長期にわたって続くことが予想される点である。藍側陣営の得票率は、今回の選挙においても4割を超えたため、藍と緑の対立構造は依然として存在するとの見方も可能である。しかし国民党は、これまで支持基盤が盤石であった地域においても敗北を重ねたため、今後の党再建の見通しが立っていない。また、仮に今後党再建が可能であったとしても、それには相当の時間

¹ 大陸側も、今回の選挙後に台湾島内の政治情勢に大きな変化が生じているとの認識を示している。参考：「國台辦新聞發佈會輯録（2016-1-27）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月27日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。

を要すると考えられ、大陸側には、今後長期的に民進党政権下の台湾と向き合う必要が生じている。第3に、大陸側のこれまでの台湾政策が限界を迎えている点である。今回の選挙結果により、大陸側は台湾の選挙を自らに都合の良い結果に導くことができないことが示された。1996年の台湾海峡危機での失敗を教訓として、大陸側は対台湾政策の方針転換を行い、馬英九政権成立後には宥和政策を軸として、数々の優遇政策を打ち出してきた。しかし、今回の選挙により、これまでの政策は必ずしも中国側に有利に働かないことが示された。

以上のことから、大陸側には、今後の長期政権が予想される民進党政権に対して、新たな対台湾政策を打ち出していく必要性が生じている。本稿では、主に大陸政府側の公式見解などに基づき、総統選及び立法委員選挙の結果に対する大陸側の見方に対する分析を行う。今回の選挙で勝利した蔡英文が総統に就任するのは5月20日であり、大陸側も総統就任時の演説などにおける台湾側の出方を見て、台湾政策の方針を最終的に決定するものと思われるため、今後の動向に引き続き注視していく必要はあるものの、現時点での大陸側の視点を整理することは、今後の兩岸関係を分析する上で重要であると考えられる。

二 大陸側の台湾選挙に対する言論の変遷

1 大陸側の対台湾政策

本節ではまず、大陸側の基本的な対台湾政策の整理を行う。近年の大陸側の対台湾政策の基礎となるのは、2005年3月に制定された「反国家分裂法」であると考えられる。鄧小平時代に出された「葉九条」や「鄧六条」、江沢民政権下において提唱された「江八点」などを通じて、大陸側は「平和的統一」を主軸とする方針を固める一

方で、台湾独立に対する武力行使の可能性については留保する姿勢をとっていた。しかしながら、当時の李登輝総統の訪米や台湾で初の総統選挙実施など、台湾側の一連の行動は大陸側にとって受け入れがたいものとして映ったため、ミサイルの発射など武力による強硬策を展開し、結果として大陸側の望まない選挙結果をもたらすこととなった。これらへの反省をもとに、大陸側は急進的な台湾統一の方針をいったん取下げ、実質上、国家が分裂している状況を容認する「現状維持路線」へと舵を切ることとなる。

民進党の陳水扁総統 2 期目就任に先立つ 2004 年 5 月 17 日、大陸側の国務院台湾事務弁公室は、台湾が「台湾独立」の主張を放棄し、「台湾独立」の活動を停止しさえすれば、兩岸間の交渉を回復し、「三通」や経済交流などを行うことができるとする声明を発出した²。続いて翌年の 3 月 4 日には、胡錦濤総書記が「胡四点」と呼ばれる声明を出し、その 10 日後の 3 月 14 日には、第 10 期全国人民代表大会第 3 次会議において「反国家分裂法」が成立した。「反国家分裂法」の最大の特徴は、これまでの「統一促進」の立場から、国家分裂（独立）さえしなければ良いという「現状維持」を容認する立場へと変更した点にあると言える。同法第 8 条では、台湾独立に対して「非平和的手段」を用いることが記載された。条文では武力行使を認めることが明確化された一方、その行使条件を厳しくし定めている。改正前に強調されていた「外国勢力の干渉」、「台湾当局が無期限に交渉を引き延ばした場合」等の条件は削除され、武力行使の条件は①「台湾独立」を掲げる分裂勢力がいかなる名目、いかなる形であれ台湾を中国から分裂させるという事実が起きた場合、②台湾の中

² 「中台辦、國台辦授權就當前兩岸關係發表聲明」『人民日報（海外版）』2004 年 5 月 17 日。

国からの分裂を引き起こす可能性のある重大な事変が引き起こされた場合、③平和統一の可能性が完全に失われた場合の3つに限定された³。また、2007年に開催された第17回党大会において、胡錦濤総書記は、「中国の主権と領土保全に関わるいかなる問題も、必ず台湾同胞を含めた全中国人民により共同で決定されなければならない」と言及した⁴。この発言には、台湾で公民投票などを通じて決定された中国の主権や領土に関する事項は無効とするという大陸側の姿勢を示すとともに、武力行使を厭わない大陸内部の強硬意見を抑える狙いがあると考えられる⁵。

2008年に台湾で行われた総統選挙では、国民党の馬英九が民進党の謝長廷に大差をつけて勝利し、続く2012年の総統・立法委員ダブル選挙でも国民党が勝利した。これにより、胡錦濤以来の対台湾政策の方針は強固なものとなった。馬英九政権下では兩岸間の積極的な交流が進展し、「三通」の解禁や兩岸間の自由貿易協定に相当する兩岸経済協力枠組協議（ECFA）の締結に代表される数々の政策が打ち出された。大陸側は、台湾が主張する事実上の「外交休戦」に応じ、台湾側の世界保健機関（WHO）の年次総会（WHA）といった国連専門機関などへの一部参加を容認するなどの宥和政策を展開した。馬英九政権が2期目に入ると、大陸側はより深い兩岸関係の構築を進めていった。習近平が2013年10月に北京で行われたAPEC

³ 松田康博「胡錦濤政権の対台湾政策と中台関係－「反国家分裂法」と第17回党大会報告の分析－」若林正文編『台湾総合研究－民主化後の政治－』（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年）、99ページ。

⁴ 胡錦濤「高舉中國特色社會主義偉大旗幟、為奪取全面建設小康社會新勝利而奮鬥」中共中央文獻研究室『十七大以來重要文獻選編』（北京市：中央文獻出版社、2009年）、頁35。

⁵ 松田康博、前掲論文、104ページ。

で台湾の蕭萬長・前副総統と会談した際には、「兩岸間に存在する政治的不一致の問題を次の代に先送りできない」と発言し、政治問題における具体的な前進に向けての強い姿勢を示した⁶。翌年の2月には、兩岸問題を主管する政府機関のトップである大陸側の張志軍・國務院台湾事務弁公室主任と台湾側の王郁琦・大陸委員会主任委員が公式に会談するなど、政治面でも兩岸間の協議が行われるようになった⁷。

しかし、2014年3月18日、台湾の学生らが立法院を占拠した「ひまわり学生運動」が起こると、兩岸関係は新たな局面を迎えていく。同運動のきっかけは、協定の審議過程で与党の国民党が強引に委員会審議を終了したことにあるが、この協定が兩岸間における「サービス貿易協定」であったため、兩岸関係も必然的にその影響を受けることとなった⁸。この動きに対して大陸側は、「台湾の同胞を含む兩岸の人民は、兩岸の平和的發展が阻害され、破壊されるのを望んでいないと信じている」と述べ、「ひまわり学生運動」への批判を行うとともに、張志軍主任は記者からの質問に対して大陸側の見解を示し、「台湾の民衆の考えを理解したい」とも回答している⁹。いずれにせよ、「ひまわり学生運動」以来、兩岸間の各種交渉は停滞し、

⁶ 「習近平總書記會見蕭萬長一行」『新華網』2013年10月6日、http://news.xinhuanet.com/world/2013-10/06/c_117603401.htm。

⁷ 「張志軍與王郁琦會面並達成積極共識」『新華網』2014年2月11日、http://news.xinhuanet.com/tw/2014-02/11/c_119288847.htm。

⁸ 「ひまわり学生運動」の経緯や分析については以下を参照：小笠原欣幸「台湾学生立法院占拠事件について」、2014年4月14日、<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/analysis/taiwanstudentsoccupation.html>。

⁹ 「國台辦新聞發佈會輯錄（2014-4-16）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2014年4月16日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201404/t20140416_6026239.htm。

同年11月29日の統一地方選挙で国民党が大敗し、馬英九が党主席を辞任すると、その状況は更に厳しいものとなっていく。

2 選挙前の大陸側の台湾選挙に対する姿勢

「ひまわり学生運動」の発生及び2014年の統一地方選挙での国民党の大敗により、台湾社会が大陸側の進める融和路線の通りに動かないことが示された。これに対し大陸側は、対台湾政策の方向転換を図るのではなく、既存の路線を基本的に踏襲する意向を表明していた。例えば同年9月26日、習近平が大陸を訪問中の台湾の中台統一派団体と会見した際、「平和統一、一国二制度は台湾問題解決の基本方針だ」と述べた¹⁰。また、2015年3月4日に行われた全国政協台湾分科会において、習近平は「四つの堅持」を示し、これまでの路線と矛盾しない対台湾政策を進めていく姿勢を示している¹¹。

一方で、2016年の選挙は早い段階から民進党の優勢が伝えられていたことに加え、国民党が総統候補をめぐって混乱したこともあり、大陸側の台湾の選挙に対する言論は、過去に比べて低調であった。例を挙げれば、張華・中国社会科学院台湾研究所助理研究員は、当初、国民党の総統候補者であった洪秀柱が展開した「一中同表」や「兩岸平和協定の締結」といった兩岸政策の言論に対し、台湾の長期的な利益にかなうものではあるものの、これまでとの相違点が大きく、台湾の民衆に受け入れられていないとの懸念を示している¹²。また、于強・国際関係学院副教授は、2004年の銃撃事件のよう

¹⁰ 「習近平總書記會見台灣和平統一團體聯合參訪團」『新華網』2014年9月26日、http://news.xinhuanet.com/politics/2014-09/26/c_1112641354.htm。

¹¹ 「習近平“四個堅持”底線清晰、原則堅定」『中國台灣網』2015年3月6日、http://www.taiwan.cn/plzhx/hxshp/201503/t20150306_9194935.htm。

¹² 張華「洪秀柱要過的三道坎兒」『世界知識』2015年7月16日号、頁57。

な突発的な事件がない限り、国民党の勝利は困難であると指摘している¹³。一方、全体として低調ではあったものの、民進党を批判する論調も多く存在していた。その例を挙げると、周志懐・中国社会科学院台湾研究所所長は「民進党には兩岸関係の平和と安定を維持する能力はない」と発言している¹⁴。また、蔡英文の5月末の訪米をアメリカ側は好意的に受け入れたが、それは必ずしもアメリカ側が蔡英文の当選を望んでいることを意味しているわけではないとする主張もあった¹⁵。

これに対して、大陸側は台湾の選挙に対する介入は行わないとの姿勢を数度にわたり表明しており¹⁶、実際、李登輝時代及び陳水扁時代の失敗から、台湾の選挙が自身に有利な形で進むように具体的措置を行うことはなくなっている。2015年5月に行われた習近平と朱立倫・国民党主席の会談や、同年11月7日に行われた「習馬会」は、台湾の選挙を国民党に有利な形で進めようとする大陸側の間接的な努力の一つとして捉えることもできるが¹⁷、洪秀柱からへ朱立倫の国

¹³ 于強「細數台灣選舉前夕的驚天翻盤」『世界知識』2015年12月16日号、頁63~65。

¹⁴ 周志懐「民進党沒能力維持兩岸和平」『新華網』2015年8月12日、http://news.xinhuanet.com/tw/2015-08/12/c_128121522.htm。

¹⁵ 張華「美國會支持蔡英文嗎」『世界知識』2015年7月1日号、頁58~59。

¹⁶ 「國台辦新聞發佈會輯錄(2015-6-24)」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年6月24日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201506/t20150624_10105645.htm；「國台辦：不介入台灣選舉、關注兩岸關係」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月16日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201601/t20160116_11366650.htm。

¹⁷ 例えば周志懐・中国社会科学院台湾研究所所長は、朱立倫の大陸訪問が、岐路に立つ国民党が挑戦に立ち向かい、兩岸が相反することを防ぐ上で重要な意義を持つと述べている(参考:周志懐「新時期國共合作行穩致遠」『環球時報』2015年5月5日)また、黃嘉樹・人民大学国際関係学院教授は、「習馬会」によって蔡英文の「国民党が兩岸関係を国共関係に変えてしまった」という主張を打ち破る役割を果たしたと

民党総統候補のすげ替えにも関わらず、民進党の優勢が揺らがない状況において、大陸側は民進党の政権奪還後の兩岸関係の構築も視野に入れ始めたと考えられる。そこで重要になってくるのが「92年コンセンサス」の扱いである。「92年コンセンサス」をめぐる論争は多々在り、立場によって異なる意見が存在している¹⁸。それ自体の詳細な分析は他稿に譲ることとするが、そもそも大陸側と台湾側では「92年コンセンサス」に対する定義が異なるため、厳密にはこれをコンセンサスと位置づけることは適切ではない。しかしこれに基づいて1993年4月にシンガポールで汪道涵と辜振甫による両会のトップ会談が行われたほか¹⁹、少なくとも馬英九政権成立以降、兩岸政府は「92年コンセンサス」を共通の政治基礎とするという前提の上に交渉を行ってきたという事実が存在している²⁰。このように「92年コンセンサス」は、これまで兩岸関係において政治的に非常に重要な役割を果たしてきたこともまた事実である。陳水扁時代には、台湾側がこの「一つの中国」原則を掲げる「92年コンセンサス」の受け入れを拒否し、兩岸の協議・交流が暗礁に乗り上げてしまったという過去の事実からも、その重要性を理解することができる²¹。大陸側にとっては、民進党政権に「92年コンセンサス」を受け入れさせ

述べている（黄嘉樹「“習馬會”成果の深層解析」『中國評論』2015年12月号、頁6-8）。

¹⁸ 「92年コンセンサス」の議論については以下を参照：許世銓、楊開煌編『“九二共識”文集』（北京市：九州出版社、2013年）。

¹⁹ 松田康博「馬英九総統再選後の台湾」『東亜』2012年6月、14ページ。

²⁰ 「政府對『九二共識』的看法為何？」『中華民國行政院大陸委員會』2015年9月15日、<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=63005&ctNode=5639&mp=1>。

²¹ 「國台辦新聞發佈會輯録（2008-2-27）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2008年2月27日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201101/t20110106_1679284.htm。

られるか否かが今後の兩岸関係を進めていく上での大きな鍵となる。民進党政権に「92年コンセンサス」を受け入れさせることは、胡錦濤以来の対台湾政策路線を継続していく基礎になるとともに、大陸側の過去における対台湾政策が正しいものであったことを証明することにもつながる。

こうした文脈から見ると、2015年11月7日に行われた「習馬会」は極めて大きな意義を持つことが分かる。このタイミングで66年ぶりに大陸側と台湾側の指導者が直接会見した「習馬会」が举行されたことに関して様々な見方があるが、「92年コンセンサス」の位置づけという視点から見ると、兩岸政府の指導者が共に「92年コンセンサス」が兩岸共通の政治的基礎であることを確認しており、これは民進党政権に対する強い牽制の役割を果たしている²²。同時に、民進党政権の成立後を視野に、大陸側の「92年コンセンサス」に対する言及も変化を見せ始める。

これまで大陸側が「92年コンセンサス」に言及する際には、『台湾独立』に反対し、『92年コンセンサス』の基礎を堅持することが、兩岸関係の平和的発展の正確な方向を確保する」という表現が多用され、習近平が2014年の北京APECで蕭萬長・前副総統と会談した際にもこのフレーズが使われた²³。しかし、民進党への政権交代が現実的になり始めた2015年の全国政協台湾分科会においては、上述の通り、習近平は「四つの堅持」を表明してこれまでの対台湾政策を継続して行く姿勢を示したほか、「92年コンセンサス」については、

²² 「張志軍：兩岸領導人會面對兩岸關係發展有六點重要意義」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年11月7日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201511/t20151108_10993727.htm。

²³ 「習近平總書記會見蕭萬長一行」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2014年11月9日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201411/t20141109_7955355.htm。

『92年コンセンサス』の核心は、大陸と台湾が一つの中国に属するという点である。この一点で合意さえすれば、台湾のいかなる政党や団体の大陸側との交流における障碍は無い」と強調した²⁴。そして「習馬会」では、「台湾の各党派、各団体が『92年コンセンサス』を直視することを希望する。我々は、どの党派、団体であれ、その過去の主張がどうであれ、『92年コンセンサス』の歴史事実を認め、その核心的内容を認めさえすれば、交流していく」という表現が使われた²⁵。「92年コンセンサス」への承認を絶対的なものとする立場から徐々にその「核心的内容」を認めさえすればよい、という立場に変わりつつあり、少しずつではあるが、大陸側の表現に変化が生じていることが見て取れる。

3 総統・立法院ダブル選挙に対する大陸側関係者の見方

選挙当日の21時頃、CCTVでは朱立倫の敗北宣言が報道された。その一時間後、中共中央台湾弁公室、國務院台湾事務弁公室は新華社を通じて、台湾の選挙結果についての談話を発表し、「我々の台湾に対する大きな政策方針は一致しており、明確であり、台湾地区の選挙結果によって変わるものではない」と強調した。また、「92年コンセンサス」に関する立場については、「我々は引き続き『92年コンセンサス』を堅持し、如何なる形式の『台湾独立』の分裂活動にも断固として反対する。(中略)我々は兩岸が一つの中国に属すること

²⁴ 「習近平強調：堅持兩岸關係和平發展道路 促進共同發展造福兩岸同胞」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年3月4日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201503/t20150304_9179574.htm。

²⁵ 「中台辦、國台辦主任張志軍談兩岸領導人首次會面」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年11月8日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201511/t20151109_10996066.htm。

に同意するすべての政党及び団体と接触・交流を強化する」という表現が用いられた²⁶。また、大陸側の外交部の洪磊・報道官が記者の質問に答える形でその立場を表明しているが、台湾問題が中国の内政であり、台湾地区の選挙結果が「一つの中国」という基本的事実と国際社会のコンセンサスを変えることはできないと強調していたものの、「92年コンセンサス」への言及はなかった²⁷。

政府側の講話以外にも、いくつかのメディアから台湾選挙に対する見方が示された。国務院所属の報道機関である新華社は、「兩岸関係の擁護と発展は、依然として台湾社会の主流民意であり、兩岸関係の平和的発展の良好な局面が台湾政局によって変化することを望まない。」と言及するとともに、「民進党が台湾で再び執政を担うことにより、兩岸関係は厳しい挑戦に直面する。もし民進党当局が台湾海峡の平和と安定の現状を擁護し、兩岸関係の前進を推進したいのなら、『92年コンセンサス』に同意するかどうかという大原則に関わる問題において明確な答えを出す必要がある。」と主張し、民進党に対する牽制を行っている²⁸。

また、中国共産党機関紙である『人民日報』のサイト『人民網』では、今回の選挙の結果をもたらした要因として、①国民党政権下で経済や民生が停滞したこと、②国民党の内部や外部で争いが絶えなかったこと、③民進党があらゆるものを利用したこと、④選挙の

²⁶ 「中共中央台辦、國務院台辦負責人就台灣地區選舉結果發表談話」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月16日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201601/t20160116_11366668.htm。

²⁷ 「外交部發言人洪磊就台灣選舉問題答記者問」『外交部』2016年1月16日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/dhdw_673027/t1332288.shtml。

²⁸ 「不畏浮雲遮望眼——且談如何看待台灣“大選”投票結果」『新華網』2016年1月16日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-01/16/c_1117797534.htm。

紀律が作用したことを挙げるとともに、その選挙結果が台湾民衆の兩岸関係の発展の進展に対する複雑な心境を反映しており、その背景には、①歴史的な経緯により、台湾の民衆が、思想や感情、価値観の方向性や思考の方法などの面で、大陸の同胞とは異なること、②「台湾独立」の分裂勢力が「脱中国化」を推し進めたことによって、台湾内部で深刻なアイデンティティー危機がもたらされていること、③大陸が台頭し、台湾が衰退の道を歩んだことで、台湾の民衆に失望感、焦燥感、危機感が生じていることを指摘している。同時に、この8年間、大陸側の主導的立場が強まるとともに、こうした大陸側主導の展開に対して、台湾社会が心理的に抵抗するという構図が一般的になっているが、これは平和的な発展から平和的な統一に至る必然的な過程であり、台湾の情勢が如何にめまぐるしく変化しようとも、台湾のいかなる政治勢力も兩岸関係の平和的な発展という歴史的潮流に抵抗することは困難であると強調している²⁹。

『人民日報』の国際版である『環球時報』のネット版に掲載された社説では、「蔡英文は現在『92年の事実』を承認しているが、しかし依然として『92年コンセンサス』を公には受け入れておらず、制度化された兩岸交流の持続可能性を不確実性なものにしている」として、蔡英文の態度の曖昧さを批判している³⁰。

選挙後には、大陸側の学者や専門家からも多くの意見が寄せられた。李義虎・北京大学台湾研究院院長は、国民党はその執政期間中に困難な局面を打開できず、自らに対する多くの批判が生じたことを民進党が十分に利用し、迎合したことが最終的な選挙の結果に繋

²⁹ 「理性看待台湾“二合一”選舉」『人民網』2016年1月16日、<http://tw.people.com.cn/n1/2016/0116/c14657-28060517.html>。

³⁰ 「社評：台湾民衆選蔡英文選的不是“台独”」『環球網』2016年1月16日、<http://opinion.huanqiu.com/editorial/2016-01/8394097.html>。

がったとしている。朱松嶺・北京聯合大学台湾研究院教授は、台湾の民意の多くは兩岸關係の平和的發展の成果が失われることを望んでおらず、民進党やその候補者でさえも、公開の場で「92年コンセンサス」を否定することはできないと主張している³¹。また周志懷・中国社会科学院台湾研究所所長は、「蔡英文に対する幻想を抱くことはないが、同時にボトムラインは決して放棄してはならない。民進党が兩岸政策に対する実質的な調整を行う前に、もし大陸が既定の政策を放棄したならば、それは台湾の多くの人々の『台湾独立』への支持を奨励することとなり、大陸の台湾政策に対する正当性は深刻な傷を負うこととなる」として、選挙結果を受けても、大陸側からは決して譲歩を行わないよう求めている³²。羅援・中国戰略文化促進会常務副会長のよう、「台湾独立」分子によって大陸側が追い込まれた場合、武力の行使も辞さないことを示唆する発言も存在する³³。

一方で台湾の選挙結果をより冷静に観察する動きもあり、章念馳・上海東アジア研究所所長は、今回の選挙によって「台湾の民主化・本土化による政治転換が全面的に完成した」としつつも、「台湾の發展は大陸と切り離すことができない」として未来に悲観する必要はないが、「平和的統一、一国二制度」はもはや台湾の民衆を引きつけることはできなくなっており、より有効な統一の論述を見つけて出す必要があると主張している³⁴。また、劉国深・アモイ大学台湾研究院院長は、近年、民進党の中にも対大陸政策を調整する動きが出

³¹ 「大陸專家：支持兩岸關係和平發展仍是台灣主流民意」『新華網』2016年1月17日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-01/17/c_1117800685.htm。

³² 周志懷「和平或對立、蔡英文將作何選擇」『環球時報』2016年1月18日。

³³ 羅援「統一、是絕不動搖的鋼鐵意志」『環球時報』2016年1月25日。

³⁴ 章念馳「怎麼看待台灣再度“變天”」『中國評論』2016年2月号、頁4-6。

ていることを指摘し、より時間をかけて民進党側に大陸への認識を改めさせるよう主張している³⁵。

4 ダブル選挙後の大陸側の対台湾政策への言及

選挙から約10日後に行われた国務院台湾事務弁公室の定例記者会見では、2015年の兩岸関係を振り返り、改めて「習馬会」を含めた一連の政策への肯定的な評価がなされた。「92年コンセンサス」への新たな表現はなかったものの、大陸から台湾への観光客の数を制限するののかという記者からの質問に対し、報道官は「(大陸からの)旅行客の数を制限しているのは台湾側の政策である」との見解を示し、大陸側が渡航制限等の措置を取らず、大陸側住民の台湾観光を引き続き支持していく考えを強調した³⁶。また、2月2日には「対台工作會議」が開催された。毎年開催されるこの会議の場では『92年コンセンサス』の堅持、『台湾独立』反対という政治基礎の下に兩岸交流・協力の制度的枠組を構築し、各分野の交流や協力を拡大・深化させた。(中略)一つの中国原則を堅持し、如何なる形式の『台湾独立』分裂活動にも断固として反対・阻止する」という言及とともに、「兩岸が一つの中国に属すると認識するあらゆる台湾の政党や団体と接触・交流を『強化する』」という表現が用いられた³⁷。翌日の新華社による「ボトムラインは更に明確に、立場は更に固く一両

³⁵ 劉国深「劉國深語中評：願看到民進黨調整和改變政策」『中國評論月刊網絡版』2016年1月19日、<http://wapwww.crntt.com/crn-webapp/mag/docDetail.jsp?coluid=0&docid=104092026&page=1>。

³⁶ 「國台辦新聞發佈會輯錄(2016-1-27)」、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。

³⁷ 選挙後に出された講話では「交流を『望む』」という表現だった。「俞正声出席2016年對台工作會議並作重要講話」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年2月2日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201602/t20160202_11380942.htm。

岸の学者が対台工作会議について解説」と題した報道において、劉相平・南京大学台湾研究所所長は、「『台湾独立』に断固として反対・阻止することは、大陸側の永遠に譲れない原則であり、ボトムラインである。」と述べている³⁸。

また3月上旬に行われた全人代・全国政協（两会）の前後に、大陸側は指導者レベルで対台湾政策に関する発言を行っている。特に王毅・外交部長が訪米中の2月25日、戦略問題研究所（CSIS）において行った演説の際、その質疑応答中に「台湾の次期政権は、中国本土と台湾は一つの中国であるとする台湾の憲法を遵守する必要がある」と述べ、台湾側で波紋を広げた³⁹。これは蔡英文が訪米中の2015年6月3日に、同じくCSISで行った講演の際に「中華民国の現行の憲政体制の下、兩岸関係の平和で安定的な発展の推進を継続する」という発言に対応したものとの見方もできる⁴⁰。

しかし两会会期中の2016年3月5日、習近平は全人代上海代表团との座談会に出席した際、『92年コンセンサス』の歴史的事実を承認し、その核心的な意味を認めることで、兩岸双方は共通の政治的基礎を持ち、良好な相互作用を維持することができる」というこれまでの言論に近い形で兩岸関係について言及した⁴¹。習近平の兩岸関

³⁸ 「底線更清晰、立場更堅定——兩岸學者解讀對台工作會議之一」『新華網』2016年2月3日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-02/03/c_1117985547.htm。

³⁹ “China says Taiwan president-elect must respect constitution,” Reuters, February 26, 2016. 台湾側の反応については他稿に譲ることとするが、総統府報道官、夏立言・行政院大陸委員会主任委員、民進党のスポークスマンなどがプレスリリースやメディアの取材に答える形で発言を行っている。

⁴⁰ 「蔡英文於CSIS演説：台灣迎向挑戰——打造亞洲新價值的典範」『民主進歩党』2015年6月4日、http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=7911。

⁴¹ 「習近平參加上海代表團審議」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/politics/2016lh/2016-03/05/c_1118244365.htm。

係についての発言と前後して、張志軍・國務院台湾事務弁公室主任は「『92年コンセンサス』を堅持するのか、『92年コンセンサス』に背離するのか、兩岸各界が言論に注目する必要がある」との発言を行い⁴²、俞正声・全国政協主席は「我々は引き続き『92年コンセンサス』を堅持し、いかなる形の『台湾独立』分裂活動にも断固反対、阻止を行う」と言及した⁴³。两会における大陸側の各指導者の発言には若干のニュアンスの違いが見られるものの、基本的には大陸側のこれまでの言説を踏襲するものであり、王毅・外交部長のアメリカでの発言とは距離があると言える。

同時に今次两会において提出された『政府活動報告』において、「『92年コンセンサス』という政治的基礎を堅持し、『台湾独立』の分裂活動に断固反対する」というフレーズが用いられた⁴⁴。これまで大陸側が兩岸の政治的基礎に言及する際、「92年コンセンサス」の堅持と「台湾独立反対」をセットでその条件としてきたが、今回の『政府活動報告』では「台湾独立反対」がその条件から外れた。これは大陸側による「台湾独立」を党綱に掲げる民進党との交渉を行うための調整の結果だという見方もできる⁴⁵。また、全人代最終日に行われた李克強の記者会見において記者からの質問に答える形で「大陸

⁴² 「張志軍：兩岸關係處於重要時間節點」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/2016-03/05/c_1118242713.htm。

⁴³ 「俞正聲參加台灣代表團審議」『中國台灣網』2016年3月7日、http://www.taiwan.cn/xwzx/la/201603/t20160307_11404188.htm?from=timeline。

⁴⁴ 「2016年政府工作報告」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/fortune/2016-03/05/c_128775704.htm。

⁴⁵ 陳桂清・中国社会科学院台湾研究所助理研究員の講演（「台湾海峡情勢と兩岸關係」、2016年3月13日、清華大学）。

で活動する台湾企業への優遇政策を変えることはない」ことを強調した⁴⁶。

以上のように、5月20日の蔡英文の総統就任演説を前に、大陸側の指導者たちは兩岸関係への積極的な言及を行っている。各指導者の発言において、その内容に幅を持たせている部分は興味深い。総じて言えば、習近平の発言に見られるように、大陸側としては自身の対台湾政策の「原則」は崩さないものの、同時に民進党と向き合うための柔軟さも見せている⁴⁷。5月20日に向けて、兩岸間での駆け引きが行われていることの裏返しとも捉えることができ、引き続き大陸側の言論の変化を注視する必要がある。

表 1 近年の大陸側の指導者及び文書における兩岸関係への言及

日付	人物（場面）	主要な内容
2014.11.9	習近平（北京 APEC での蕭萬長との会見）	兩岸間に存在する政治的不一致の問題を次の代に先送りできない。「台湾独立」に反対し、「92年コンセンサス」の基礎を堅持することが、兩岸関係の平和的発展の正確な方向を確保する。
2015.3.4	習近平（2015年全国政協台湾分科会）	「92年コンセンサス」は兩岸の政治相互信頼、対話協議、兩岸関係の改善と

⁴⁶ 「兩會授權發佈：在十二屆全國人大四次會議記者會上李克強總理答中外記者問」『新華網』2016年3月17日、http://news.xinhuanet.com/fortune/2016-03/17/c_128805588_3.htm。

⁴⁷ なお、指導者ではないものの、大陸政府に近い中国社会科学院台湾研究所の張華・助理研究員が「92年コンセンサス」について言及している。張研究員によれば、民進党側が「92年コンセンサス」の核心的意義である「兩岸が一つの中国に属する」という事実さえ承認すれば、兩岸関係の平和的発展における新たなコンセンサスを行うことも可能としている。以下を参考：張華「張華：大陸與岡比亞建交釋放什麼信號」『華夏經緯網』2016年3月21日、<http://www.huaxia.com/thpl/djpl/2016/03/4771512.html>。

		発展に対して重要である。「台湾独立」によって兩岸双方の政治的基礎が破壊されたなら、兩岸関係は再び揺れ動き、不安のある古い道へと戻ることとなる。
2015.5.4	習近平（朱立倫との会見）	兩岸関係の平和的発展の道を歩むことを堅持し、「92年コンセンサス」「台湾独立」反対という政治基礎を堅持しなければならない。
2015.11.7	習近平（「習馬会」）	「92年コンセンサス」を堅持し、共通の政治的基礎を強固にし、兩岸関係の発展の正確な方向を保持するよう望む。
2015.11.7	張志軍（「習馬会」後の記者会見）	たとえその台湾の各党派及び各団体が過去にどのような主張をしたことがあったとしても、「92年コンセンサス」の歴史的事実を承認し、その核心の意図を認めさえすれば、我々は喜んで交流する。
2016.1.16	国务院台湾弁公室（台湾の選挙結果を受けての談話）	我々は引き続き「92年コンセンサス」を堅持し、如何なる形式の「台湾独立」の分裂活動にも断固として反対する。我々は兩岸が一つの中国に属することに同意するすべての政党及び団体と接触・交流を強化する。
2016.2.25	王毅（米国 CSIS でのシンポジウム）	台湾の次期政権は、中国本土と台湾は一つの中国であるとする台湾の憲法を遵守する必要がある。
2016.3.5	（2015年政府活動報告）	「92年コンセンサス」という政治的基礎を堅持し、「台湾独立」の分裂活動に断固反対する。
2016.3.5	習近平（2016年全人代上海代表団の座談会）	「92年コンセンサス」の歴史的事実を承認し、その核心的な意味を認めることで、兩岸双方は共通の政治的基礎を持ち、良好な相互作用を維持することができる。

2016.3.6	愈正声(2016年全人代台湾代表団の座談会)	引き続き「92年コンセンサス」を堅持し、いかなる形の「台湾独立」分裂活動にも断固反対、阻止を行う。
2016.3.16	李克強(2016年两会後の記者会見)	我々は引き続き兩岸の経済発展にとって有利な措置を講じるが、当然、その前提は「92年コンセンサス」である。この政治的基礎を遵守し、皆が一つの中国に属することを認めさえすれば、如何なる問題でも議論できる。大陸で活動する台湾企業への優遇政策を変えることはない。

(出典) 筆者作成。

三 結論にかえて—今後の兩岸関係の展望—

本稿では、大陸側の講話や評論などを通じ、大陸側の今回の台湾総統・立法委員選挙への見方に関する分析を行った。大陸側の対台湾政策は、台湾側の反応やその他の要因を反映し、日々少しずつ変化しているものの、現時点において以下のように整理することができる。

第1に、民進党政権成立後も、大陸側の対台湾政策の方向性には大きな変化が起こる可能性は限定的である。胡錦濤時代以来構築されてきた兩岸の現状維持容認の方針は、すでに多くの成果を出しており、また兩岸の平和的発展の基礎ともなっている。加えて中国は現在、東シナ海や南シナ海でも周辺国との緊張関係を抱えており、そのような状況の中で台湾への武力行使を含めた強硬な手段に出るとは考えにくい⁴⁸。今回の台湾での選挙結果に対して、大陸側は「台

⁴⁸ 事実、馬英九が1月28日に南シナ海で台湾側が実効支配している太平島に上陸した際には、その行動を積極的に支持し、国家主権と領土を守ることは、兩岸同胞の共

湾に対する大政の方針は、台湾地区の選挙結果で変わるものではない」と重ねて強調している⁴⁹。しかし同時に、これまでの大陸側の対台湾政策では、必ずしも大陸側の思うような選挙結果をもたらすことができないことが示されたと言うこともでき、大陸側が対台湾政策の調整を行う可能性もある。実際、2016年3月17日、大陸側はガンビアとの国交回復を果たした。台湾側とガンビアは2013年11月15日に国交を断絶していたが、馬英九政権との間の「外交休兵」の暗黙の了解があったため、大陸側はガンビアとの国交回復を遅らせていた⁵⁰。しかし選挙後かつ蔡英文の総統就任前というタイミングでガンビアとの国交を発表したことは、大陸側の何らかのメッセージ込められたものと見るのが妥当と言える。今回のガンビアとの国交回復は、大陸側の「飴と鞭」を同時に使った対台湾政策として捉えることも可能であり、大陸の対台湾政策には引き続き注意を払う必要がある。

第2に、大陸側が民進党政権下の台湾と交流を行う上で最も基本的かつ重要な「92年コンセンサス」の扱いをめぐっては、すでに兩岸間で駆け引きが続いているが、最終的には双方が多少の譲歩を行い、落としどころを模索することになると考えられる。上述の通り、大陸側でも「92年コンセンサス」に対する言及が少しずつ変化しており、蔡英文の出方を見つつ、調整していくものと思われる。少なくとも大陸側は、台湾側が譲歩したと見ることのできる状況に着地

通の責任の義務であると主張している。以下を参考：「歓迎馬英九登太平島、蔡英文莫後退」『環球時報』2016年1月29日；「國台辦新聞發佈會輯録（2016-1-27）」、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。

⁴⁹ 「國台辦新聞發佈會輯録（2016-1-27）」、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。

⁵⁰ 張華「張華：大陸與岡比亞建交釋放什麼信號」。

点を持って行きたいと考えており、それにより引き続き大陸側が兩岸関係の主導権を握っていることを強調する意図が込められているものと思われる。

以上のように、民進党政権の誕生によって、若干の調整が見られるものの、大陸側の対台湾政策の基本的な立場に変化はないものと考えられる。ただし、本稿では直接の分析は行わなかったものの、中国大陸自身の変化が対台湾政策に影響を与える可能性も示唆できる。大陸の台頭と共に高まるナショナリズム、第19回党大会に向けた共産党内部の権力闘争、大陸の経済調整などが挙げられる。特にナショナリズムについては、大陸内部のインターネットの発達とともに新たな様相を呈している。実際、今回の選挙中、多くの大陸ネットユーザーが当局のインターネットの封鎖を飛び越えて、Facebookで蔡英文を批判した書き込みが話題となった⁵¹。今回の選挙結果に対しては大陸の多くのネットユーザーを中心に不満が高まっており、大陸側が今後も台湾に対する友好的な政策を引き続き展開していけるかについては注意して見ていく必要がある。

今回の台湾で生じた民進党の歴史的な勝利と政権交代は、戦後台湾の民主化、台湾化の集大成という側面と、単なる二大政党制の下における振り子の作用という側面が同時に存在していると考えられるが⁵²、最も注目すべき点として、やはり中国が台頭を続ける中、中国と距離を置く政権が勝利したことが挙げられる。もちろん中国における生産コストの上昇に伴う台湾企業の撤退や中国経済そのものの減速といった要素に加え、今回の選挙では何よりも中国との関係

⁵¹ 「不必誇張“帝吧出征”的兩岸負效果」『環球時報』2016年1月22日。

⁵² 川島真「台湾の116選挙の読み方——戦後台湾と東アジアの将来の岐路に立つ蔡英文・新政権」『nippon.com』2016年2月2日、<http://www.nippon.com/ja/editor/f00038/>。

強化から生じる経済的な恩恵を預かれていないと認識する若者たちの行動が選挙の結果に大きな影響を与えたと言えるが、それでも中国の輸出入が自身の対外貿易において最大の比率を占めている状況下で、民進党がこれほどの勝利を収めたことは特筆すべきである。この数十年、台湾を含む世界中で中国の台頭に乗じて利益の拡大をはかるかが重要であった。しかし中国が世界第2の経済大国となり、その政治的・軍事的プレゼンスを拡大し、「一带一路」構想や AIIB などの世界を巻き込んだ政策を展開する大国としての地位を確かなものにしつつある中で、台湾が中国と距離を置く政権を成立させたことは、ある種の「ポスト中国台頭期」における中国と周辺国との関係を見極める上での重要な指標となるのではないだろうか。

一方の中国にとって、これまでの経済一辺倒のやり方では必ずしも自身に有利な形で国際関係を構築できなくなっている。特にその安全保障や政治的な分野で周辺国との緊張が高まる中、どのように安定した地域環境を作れるかが、中国にとっての最重要課題であると言える。その中で、民進党政権下の台湾を経済以外の方法で引きつけ、大国としての矜持を見せ、その安定的な相互関係を築いていけるかは、今後の東アジア情勢を占う上での試金石とも言え、引き続き注意深く観察していく必要がある。

(寄稿：2016年2月22日、採用：2016年4月5日)

中國大陸對 2016 年台灣總統、立委 二合一大選的立場研析

宇都宮 溪

(國立台灣大學政治學研究所博士生・在中國日本大使館研究員)

【摘要】

由於 2016 年台灣總統、立委二合一大選結果民進黨獲得壓倒性勝利而國民黨面臨大敗，中國大陸之後必須面對民進黨的長期執政。大陸政府一方面強調本次台灣選舉並不會動搖本身的對台政策，但另一方面，迫於情勢，仍須著手調整對台政策。在此背景之下，大陸與台灣之間對於以「一個中國」原則為核心的「九二共識」已展開折衝斡旋。本文認為雙方能否找出彼此都認同的妥協平衡點將是探討此後兩岸關係發展的關鍵。

關鍵字：中國大陸的對台政策、2016 年台灣總統選舉及立法委員選舉、九二共識

Taiwan's 2016 General Election: China's View

Kei Utsunomiya

Ph. D. candidate, Department of Political Science, National Taiwan
University/Researcher at the Embassy

[Abstract]

Following the DPP's overwhelming victory over KMT's landslide defeat in Taiwan's 2016 general election, China faces the prospect of a long period of DPP-led government in Taipei. Although China insists that the result of the election would not destabilize its basic Taiwan policy, Beijing is to be forced to make policy adjustments. Under the new post-election circumstances, the two sides have begun contending and struggling the interpretation of "one China" and the "1992 consensus." This paper suggests that the key question in the development of post-election cross-strait relations is whether or not Beijing and Taipei can reach a compromise acceptable to both sides regarding the definition of these terms.

Keywords: China's Taiwan policy, 2016 Taiwanese general election, 1992
consensus

〈参考文献〉

- 小笠原欣幸「台湾学生立法院占拠事件について」、2014年4月14日、<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/analysis/taiwanstudentsoccupation.html>。
- 川島真「台湾の116選挙の読み方——戦後台湾と東アジアの将来の岐路に立つ蔡英文・新政権」『nippon.com』2016年2月2日、<http://www.nippon.com/ja/editor/f00038/>。
- 松田康博「馬英九総統再選後の台湾」『東亜』2012年6月、14ページ。
- 松田康博「胡錦濤政権の対台湾政策と中台関係—「反国家分裂法」と第17回党大会報告の分析—」若林正丈編『台湾総合研究—民主化後の政治—』（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年）、99ページ。
- 「2016年政府工作報告」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/fortune/2016-03/05/c_128775704.htm。
- 「大陸專家：支持兩岸關係和平發展仍是台灣主流民意」『新華網』2016年1月17日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-01/17/c_1117800685.htm。
- 「不必誇張“帝吧出征”的兩岸負效果」『環球時報』2016年1月22日。
- 「不畏浮雲遮望眼——且談如何看待台灣“大選”投票結果」『新華網』2016年1月16日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-01/16/c_1117797534.htm。
- 「中台辦、國台辦主任張志軍談兩岸領導人首次會面」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年11月8日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201511/t20151109_10996066.htm。
- 「中台辦、國台辦授權就當前兩岸關係發表聲明」『人民日報（海外版）』2004年5月17日。
- 「中共中央台辦、國務院台辦負責人就台灣地區選舉結果發表談話」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月16日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201601/t20160116_11366668.htm。
- 「外交部發言人洪磊就台灣選舉問題答記者問」『外交部』2016年1月16日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/dhdw_673027/t1332288.shtml。
- 「兩會授權發佈：在十二屆全國人大四次會議記者會上李克強總理答中外記者問」『新華網』2016年3月17日、http://news.xinhuanet.com/fortune/2016-03/17/c_128805588_3.htm。
- 「底線更清晰、立場更堅定——兩岸學者解讀對台工作會議之一」『新華網』2016年2月3日、http://news.xinhuanet.com/tw/2016-02/03/c_1117985547.htm。
- 「社評：台灣民衆選蔡英文選的不是“台獨”」『環球網』2016年1月16日、<http://opinion.huanqiu.com/editorial/2016-01/8394097.html>。
- 「俞正声出席2016年對台工作會議並作重要講話」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年2月2日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201602/t20160202_11380942.htm。

- 「政府對『九二共識』的看法為何？」『中華民國行政院大陸委員會』2015年9月15日、
<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=63005&ctNode=5639&mp=1>。
- 「國台辦：不介入台灣選舉、關注兩岸關係」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月16日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201601/t20160116_11366650.htm。
- 「國台辦新聞發佈會輯錄（2016-1-27）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2016年1月27日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。
- 「國台辦新聞發佈會輯錄（2015-6-24）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年6月24日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201506/t20150624_10105645.htm。
- 「國台辦新聞發佈會輯錄（2014-4-16）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2014年4月16日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201404/t20140416_6026239.htm。
- 「國台辦新聞發佈會輯錄（2008-2-27）」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2008年2月27日、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201101/t20110106_1679284.htm。
- 「張志軍：兩岸領導人會面對兩岸關係發展有六點重要意義」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年11月7日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201511/t20151108_10993727.htm。
- 「張志軍：兩岸關係處於重要時間節點」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/2016-03/05/c_1118242713.htm。
- 「張志軍與王郁琦會面並達成積極共識」『新華網』2014年2月11日、http://news.xinhuanet.com/tw/2014-02/11/c_119288847.htm。
- 「理性看待台灣“二合一”選舉」『人民網』2016年1月16日、<http://tw.people.com.cn/n1/2016/0116/c14657-28060517.html>。
- 「習近平“四個堅持”底線清晰、原則堅定」『中國台灣網』2015年3月6日、http://www.taiwan.cn/plzhx/hxshp/201503/t20150306_9194935.htm。
- 「習近平參加上海代表團審議」『新華網』2016年3月5日、http://news.xinhuanet.com/politics/2016lh/2016-03/05/c_1118244365.htm。
- 「習近平強調：堅持兩岸關係和平發展道路 促進共同發展造福兩岸同胞」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2015年3月4日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201503/t20150304_9179574.htm。
- 「習近平總書記會見台灣和平統一團體聯合參訪團」『新華網』2014年9月26日、
http://news.xinhuanet.com/politics/2014-09/26/c_1112641354.htm。
- 「習近平總書記會見蕭萬長一行」『中共中央台灣工作辦公室・國務院台灣事務辦公室』2014年11月9日、http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201411/t20141109_7955355.htm。

- 「習近平總書記會見蕭萬長一行」『新華網』2013年10月6日、http://news.xinhuanet.com/world/2013-10/06/c_117603401.htm。
- 「愈正聲參加台灣代表團審議」『中國台灣網』2016年3月7日、http://www.taiwan.cn/xwzx/la/201603/t20160307_11404188.htm?from=timeline。
- 「蔡英文於 CSIS 演說：台灣迎向挑戰——打造亞洲新價值的典範」『民主進步黨』2015年6月4日、http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=7911。
- 「歡迎馬英九登太平島、蔡英文莫後退」『環球時報』2016年1月29日；「國台辦新聞發佈會輯錄（2016-1-27）」、http://www.gwytb.gov.cn/xwfbh/201601/t20160127_11376021.htm。
- 于強「細數台灣選舉前夕的驚天翻盤」『世界知識』2015年12月16日号、頁63~65。
- 周志懷「民進黨沒能力維持兩岸和平」『新華網』2015年8月12日、http://news.xinhuanet.com/tw/2015-08/12/c_128121522.htm。
- 周志懷「和平或對立、蔡英文將作何選擇」『環球時報』2016年1月18日。
- 周志懷「新時期國共合作行穩致遠」『環球時報』2015年5月5日。
- 胡錦濤「高舉中國特色社會主義偉大旗幟、為奪取全面建設小康社會新勝利而奮鬥」中共中央文獻研究室『十七大以來重要文獻選編』（北京市：中央文獻出版社、2009年）、頁35。
- 張華「張華：大陸與岡比亞建交釋放什麼信號」『華夏經緯網』2016年3月21日、<http://www.huaxia.com/thpl/djpl/2016/03/4771512.html>。
- 張華「洪秀柱要過的三道坎兒」『世界知識』2015年7月16日号、頁57。
- 張華「美國會支持蔡英文嗎」『世界知識』2015年7月1日号、頁58~59。
- 章念馳「怎麼看待台灣再度“變天”」『中國評論』2016年2月号、頁4~6。
- 許世銓、楊開煌編『“九二共識”文集』（北京市：九州出版社、2013年）。
- 黃嘉樹「“習馬會”成果的深層解析」『中國評論』2015年12月号、頁6~8。
- 劉國深「劉國深語中評：願看到民進黨調整和改變政策」『中國評論月刊網絡版』2016年1月19日、<http://wapwww.crntt.com/crn-webapp/mag/docDetail.jsp?coluid=0&docid=104092026&page=1>。
- 羅援「統一、是絕不動搖的鋼鐵意志」『環球時報』2016年1月25日。
- “China says Taiwan president-elect must respect constitution,” Reuters, February 26, 2016.